課題は新しい世界見据えた教育改革

「常に先を読み、時代を創造する」テーマに講演

オリックス　宮内義彦シニア・チェアマン

プロ野球オリックス・バファローズのオーナーでオリックスの宮内義彦シニア・チェアマンはこのほど、大阪市内のホテルで母校・関西学院同窓生を対象に「常に先を読み、時代を創造する」のテーマで要旨次のように講演した。

関西学院なくして今はない

文部科学省のデータにいますが、日本から世界に勝る大学が出てきたかどうかは疑問に感じます。世界の中で日本の大学の地位は年々、低下しているのが現状です。日本の大学は決して一流ともいえません。これこそ日本経済の全体の姿です。今後は日本の大学の地位を向上させるんの影響により関西の地位が低下し、企業もどんどん東京に本社を移転し、人を集中させなければならない世の中になったからです。要するに、これは大学が東京に存在するだけで地位が上昇したことに東に存在するだけで地位が上昇している大学や企業も多くあります。勿論、関西であるがために地位が低下する現象が起こったわけではありません。

日本は優秀な学生がどうしても都心で勉強したいという独特の気質があります。世界中のごく一部の日本が豊かで安全で世界から尊敬され、日本に工場や大学が移転できるような法律が施行されましょうか。おそらく6割の仕事が全く違うものに変わり、あるいは減少するでしょう。

デジタルトランスフォーメーションは我々の生活を一変させる力を持っています。これを現実的に動かせるのは人間ではありません。社会の中で適応できない状況です。我々の会社ではアジア近隣の卒業生を採用していますが、日本の卒業生は学力が劣ります。

また日本の大学はブランド化になっています。偏差値の高い大学に入学することでブランドを獲得し、またその出身大学は一生消えません。このブランドをそのまま受け入れている社会もおかしいと思います。ブランド大学からブランド企業に入社すれば、気楽な人生を送れると思うかもしれませんが、社会では通用しません。

日本の大学受験は偏差値の高い大学に入学することに注力し、大学も偏差値を上げることが慣習になっています。ビジネスの商品やサービスはすぐに消滅しますが、大学はブランド力で生き残っていけるという自負があり、大学のブランド力は数十年間は存続しますが、そのブランドにあぐらをかいていただけるため、いつの間にか大学全体が海外の大学より劣ってしまっているのが現状です。

本当に厳しい大学間の競争、先生方の競争、学生の競争を実現して、はじめて世の中を動かせる人材が生まれてくるのではないかと思います。

関西学院は今こそ、自校の立ち位置をよく見極めた上で今後百年を見据えた独自の教育理念を再構築し、この処の停滞感を打ち破ると共に飛躍の礎を作り上げていただきたいと切に願っています。振り返ってみると、私は母校・関西学院を誇りに思い、関西学院なくして今はありません。世の中の動きは時代と共に変わりつつあり、本当の教育もその変化に対応していくことが必要です。今後の関西学院の奮闘を心から応援します。

関西学院同窓生を対象に講演するオリックスの宮内義彦シニア・チェアマン（大阪市内）

我々の生活を一変させる デジタルトランスフォーメーション

東京一極集中で関西の地位低下 日本の優秀な学生は都心志向

た。それで関東や関西の大学も都心から離れていき、その後この法律が撤廃されたため、都心から離れた大学の地位低下が再度、東京だけで新しい規制を作ろうということです。

関西学院は兵庫県西宮市上ヶ原の郊外を中心に三田市という奥地にも展開している学校で全く都心に進出していません。大学より遅れてしまいヤンスをどのように活かし、将来の構想にこの考かと思います。

新しいニュースでは、関西学院は文部科学省のスーパーグローバル大学やスーパーグローバル高校に採択され、国際化を促進させようとしています。最近、関西では一歩先んじた立場でこれを機にさらに躍進することを誓っています。

世界の人口は約74億人です。その内、日本人は1億2千8百万人です

り、日本なくして世界を大学も都心から離れていき、その後この法律が撤廃されたため、都心から離れた大学の地位低下が再度、東京だけで新しい規制を作ろうということです。

関西学院は兵庫県西宮市上ヶ原の郊外を中心に三田市という奥地にも展開している学校で全く都心に進出していません。大学より遅れてしまいヤンスをどのように活かし、将来の構想にこの考かと思います。

新しいニュースでは、関西学院は文部科学省のスーパーグローバル大学やスーパーグローバル高校に採択され、国際化を促進させようとしています。最近、関西では一歩先んじた立場でこれを機にさらに躍進することを誓っています。

世界の人口は約74億人です。その内、日本人は仕事がどれだけあるので

考えることができない法律がばならないです。

一番重要な課題は教育であることは言うまでもありません。新しい世界を見据えた教育をすることは日本の教育機関の一番大きな努めです。昔から関西学院は国際性は非常に高いと言われていますが、これにもっとスピード感を持たなければ課題は関西学院がこのチ大学より遅れてしまいヤンスをどのように活かすことや海外の文化に慣れえを取り入れていくべきく別の局面で変化していることはデジタルトランスフォーメーション（デジタルへの変革）です。

ＩｏＴやロボット、ＡＩ、ビックデータと言わず、理数系、理工系の人材を育成しないといけないと言われているデジタルの世界が新しい世界を創っていけません。現在の日本の理系の学生は中国と比較し、人材が生まれてくるのではないかと思います。

関西学院は今こそ、自校の立ち位置をよく見極めた上で今後百年を見据えた独自の教育理念を再構築し、この処の停滞感を打ち破ると共に飛躍の礎を作り上げていただきたいと切に願っています。振り返ってみると、私は母校・関西学院を誇りに思い、関西学院なくして今はありません。世の中の動きは時代と共に変わりつつあり、本当の教育もその変化に対応していくことが必要です。今後の関西学院の奮闘を心から応援します。

母校・関西学院は今後百年に向け 今こそ独自の教育理念を再構築し 飛躍の礎を作り上げることを願う

ブランド化で劣化した大学、企業

社会では個々の実力がないと通用しない

●宮内義彦氏（みやうち・よしひこ）のプロフィール
１９３５年神戸市生まれ。１９５８年関西学院大学商学部卒業、６０年シントン大学経営学部大学院でＭＢＡ取得後、日綿実業（現双日）入社、６４年オリエント・リース株式会社（現オリックス）入社、８０年代表取締役社長・グループＣＥＯ、２０００年代表取締役会長・グループＣＥＯ、０３年取締役兼代表取締役会長・グループＣＥＯ、１４年から現職のシニア・チェアマン。